## 5　第5学年　異文化理解　Let's enjoy "MAKURANO-SOSI"

教育学研究科　学習科学専攻　学習開発基礎専修　澤口　陽彦

### 1　はじめに

はじめにこの「体験型海外教育実地研究」のことを知ったのは，学部生時代の指導教官であり，GPSC のスタッフでもある神山貴弥先生（現同志社大学教授）と，実際に参加された研究室の先輩たちからのお話であった。海外で授業ができるという魅力とともに，先輩方が英語を臆することなく話す姿に強く憧れ，長く大学院入学の際にやりたいことの一つであった。そもそも私は得意ではなく，中学のころから悪い成績をとる「英語」には，ある意味で憎しみにも似た感情をもっていた。しかし，先の学習指導要領の改訂により小学校教育において外国語活動が必修科目となった。この外国語活動の目標の一つは，「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」を図るとされている。しかし，今の自分を鑑みて，「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」が身についているとは言い難いと思い，この授業に参加することで，「コミュニケーション能力の素地」となりうる「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を身につけようと考えていた。

### 2　実地研究の日程と概要

| | | 交通等 | 訪問地・用務等 | 宿泊地 |
|---|---|---|---|---|
| 4/22 | 木 | 渡航までの日程確認　パスポート確認　ESTA・保険の確認<br>5/13，23 の紹介と確認　授業研究テーマの設定方法 | | |
| 5/13 | 木 | Culture and Pedagogy: Bushido，Sado，Kado，Is there a way of education? | | |
| 5/23 | 木 | J・タッカー先生、ECU 学生案内　広島駅→平和公園・宮島→広島駅 | | |
| 5/27 | 日 | ホテル部屋割り　授業研究テーマ案の交流 | | |
| 6/17 | 木 | 学習指導案の検討 | | |
| 7/15 | 木 | 学習指導案の検討　渡航のための諸手続き | | |
| 7/17 | 土 | 第 6 回学校間交流国際フォーラム | | |
| 7/18 | 日 | 2010 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ<br>2010 体験型海外教育実地研究発表会 | | |
| 8/27 | 金 | 学習指導案の検討および教材・教具の作成　渡航のための諸手続き | | |
| 9/2 | 木 | 渡航準備　直前打ち合わせ<br>報告書作成および発表会の打ち合わせ | | |
| 9/11 | 土 | 広島空港 0745-0925 成田空港 (NH-3128)<br>成田空港 1105-1040 ワシントン ダグラス空港 (NH-2)<br>ワシントン ダグラス空港 1235-1340 ローリー (NH-7144)<br>（以上，航空機で移動）<br>RDU 空港→City Hotel & Bistro　（タクシーで移動） | | ノースカロライナ州<br>グリーンビル<br>City Hotel & Bistro<br>203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834<br>Tel; 877-271-2616 |
| 9/12 | 日 | ホテル→イーストカロライナ大→ホテル | イーストカロライナ大（ECU）にて歓迎レセプション | (Greenville)<br>同上 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | （ウォーレン先生ご夫妻のお車で移動） | 伝統料理と大変大きいケーキ，甘いお茶に衝撃を受ける。 | |
| 9/13 | 月 | ホテル→エルムハースト E.S.<br>（ウォーレン先生ご夫妻のお車で移動） | 学校訪問<br>エルムハースト E.S. (K-5)<br>幼小一環の公立学校<br>学校，授業観察<br>様々な教室を拝見し，American standard を学ぶ。 | (Greenville)<br>同上 |
| | | | 夕食：日本食<br>Hibachi Grill & Supreme Buffet | |
| 9/14 | 火 | ホテル→エルムハースト E.S.<br>（ウォーレン先生ご夫妻のお車で移動） | 午前：学校訪問<br>打ち合わせ，授業<br>英語で授業→キックベースで遊ぶ。 | (Greenville)<br>同上 |
| | | エルムハースト E.S.→ECU→ホテル<br>（ウォーレン先生ご夫妻のお車で移動） | 午後：<br>○ECU Teacher Resource Center（図書館）一般の教師も簡単に使えるうえ，教材作成に便利なものもあった。<br>○ECU Bookstore（大学生協）様々な本やECパイレーツ（地元のNFLチーム）グッズなどがあった。<br>○Bender-Burkot Store（教材屋）閉店2日前で，商品はあまりなかったが全品3割引であった。<br>夕食： McAllister's Deil.<br>エルムハースト E.S.の先生方とご一緒。サンドイッチ。 | |
| 9/15 | 水 | ホテル→聖ピーター・カトリック学校→ローリーのホテル<br>（ターカー先生らのお車で移動） | 午前：学校訪問<br>St. Peter's Catholic School.<br>幼小中一環（K-8）<br>K-5は基本的に学級担任制。<br>すさまじい歓迎を受ける。 | ノースカロライナ州<br>ローリー<br>Clarion State Capital<br>320 Hillsborough St.<br>Raleigh, NC<br>Tel; 919-832-0501<br>Fax; 919-833-1631 |
| 9/16 | 木 | ホテル→エクスプローリス中→自然史博物館→自由行動→ホテル | 9:00：Exploris M.S.<br>11:00：博物館めぐり<br>○ノースカロライナ自然史 | (Raleigh)<br>同上 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | （各自歩きで移動） | 博物館見学，その後自由行動。<br>喫茶店→郵便局→子ども博物館 | |
| 9/17 | 金 | ホテル→RDU<br>（タクシーにて移動）<br><br>ローリー空港 1025-1130<br>ワシントン ダグラス空港 (NH-7145)<br>（飛行機にて移動）<br><br>空港→ホテル<br>（タクシーにて移動） | ワシントン DC の観光<br>ショッピングモールに地下鉄で行く。米の地下鉄は暗い。ショッピングモールは日本に似た雰囲気である。 | ワシントン DC<br>Washington Plaza<br>10 Thomas Circle, N.W.<br>Washington , DC 20005<br>Tel; 202-842-1300<br>800-424-1140<br>Fax; 202-371-9602 |
| 9/18 | 土 | ホワイトハウス→ワシントンタワー→自由行動<br>（各自歩きで移動） | ホワイトハウス→ワシントンタワー→自由行動（博物館見学）航空宇宙博物館→歴史博物館→自然史博物館等<br>○アメリカンスケール。<br>○だんだん店員とも話せるようになってくる。<br>夕食：シーフードディナー。 | （Washington DC）<br>同上 |
| 9/19<br>20 | 日<br>月 | ホテル→空港<br>（ダンスホールのようなタクシーにて移動）<br>ワシントン ダグラス空港 1220-1525 成田空港 (NH-1)<br>成田空港 1750-1925 広島空港 (NH-3129)<br>解散 | | |

## 3 実地研究授業

3.1 単元名 第 5 学年（AIG 学級）異文化理解「Let's enjoy "MAKURA-NO-SOSI"」

3.2 事前準備

私が今回枕草子を教材にしたのは，ボランティアで通わせていただいている東広島市立原小学校の先行実践があったからである。原小学校の授業では，枕草子の冒頭部分を読み深め，その後視点の変化や色彩の使い方など，枕草子に見られる特徴的な表現方法を学習し，それを活かして「原」の四季をテーマに児童が創作をする。今回の授業では時間が 1 時間分しかないため，そのすべてを行うことは不可能と考え，枕草子の冒頭を読むことで，枕草子がどんなものであるかを捉えた上で，創作活動をメインとして行うことにした。また，アメリカの子どもたちが親しみを感じやすいように，また，日本人の自然に対する感覚と比較できるように，原小学校の児童が創作したものを英訳しておいた。

3.3 学習指導案

Lesson Title: Let's enjoy "*MAKURANO-SOSI*"!!

Lesson Author: Haruhiko Sawaguchi

Date: September 2010

Grade Levels:5th (AIG)

Subject: Culture

Description: In this lesson, students listen to "MAKURANO-SOSI" and create American "MAKURANO-SOSI".

Goal: This lesson will encourage student to notice similarities and differences between Japanese ways of appreciating seasons and nature and those of American students. It will also help students develop an interest for their own culture.

Objectives 1. Feel and understand "MAKURANO-SOSI"
2. Enjoy creating American "MAKURNANO-SOSI"
3. Understand similarity and difference of Japanese feelings and them it.

Materials, Resources and technology: "The pillow book" what is "MAKURANO-SOSI" in English, "MAKURANO-SOSI" made by Japanese children.

Procedure

| Activity | Attention | Evaluation |
|---|---|---|
| 1. Listen to "MAKURANO-SOSI". | 1. Read "MAKURANO-SOSI" in Japanese.<br>・Read slowly as students feel rhythm of Japanese. | Watch the students listening styles. |
| 2. Understand to "MAKURA NO- SOSI". | 2. Read "MAKURANO-SOSI" in English, and explain what "MAKURANO-SOSI" is.<br>・Show some picture that help to understand "MAKURANO-SOSI" and Japanese season.<br>・Give a simple explanation because this lesson aims for creation than understanding. | |
| 3. How Japanese Children feel season and nature. | 3. Read "MAKURANO-SOSI" made by Japanese children, and explain it.<br>・Notice it made by Japanese children who is same age. | |
| 4. Create American "MAKUR ANO-SOSI". | 4. First, students find how feel season and nature themselves. Second, they write American | Watch the students image .<br>・How many ? |

| | | |
|---|---|---|
| | "MAKURANO-SOSI". | ・How clearly ? |
| 5. Exchange with class loom. | 5. Exchange with small group.<br>And exchange with class loom.<br>・Some volunteer students. | |

3.4　授業の実際

はじめに，教材となる部分である「枕草子」冒頭を読んだ。日本語と英語の双方が書いてあるワークシートを配布し，段落ごとに授業者が日本語を読み，児童に英語の部分を読ませた。これによって日本語のリズムを感じさせるとともに，枕草子の原作について知ることを目的とした。次に枕草子について簡単に説明し，日本の四季の美しさを情景などとあわせて紹介しているということをつかませた。さらに，日本の子どもが創作した「枕草子」を原文と同じように日本語,英語の順で読み,日本の子どもたちの感じる四季について考えさせた。その後，本時はアメリカ版を創作するということを伝えた。創作は，それぞれ四季を選び，自分の好きな場面についてイメージを広げ，それを言葉にした。さらに，日本の子どもたちへ創作したものを持って帰り，紹介するために，と画用紙に色ペンを使い書かせた後，主題に即した絵も描かせた。

3.5　考察

日本の子どもたちが創作した「枕草子」を読んだとき，児童たちは食い入るように作品の写真を見つめ，授業者の話を聴いていた。本時において，枕草子の原文だけでなく，日本の子どもたちが創作したものを子どもたちに読み，写真で提示したことは，児童の興味関心を高めるために非常に有効であったと考えられる。また，本時にアメリカ版を創作すると伝えたとき，児童たちはすぐに思いつき，挙手をして発表していた。なかなか思いつかなかった場合に，ということでブレインストーミングするためのワークシートを用意していたが，そのワークシートは結局使う必要がなかった。これは，原文の4季節分と，日本の児童の創作4 季節分を読んだことで，より枕草子の主題が捉えやすかったことと，創作内容に特に縛りを設けなかったことが要因であると考えられる。

しかし，短時間での実践だったため，枕草子について深く説明できず，日本の子どもたちが創作したときに学習した視点移動や色彩感覚，古文調などの枕草子の特徴といえる部分への理解や作品への反映などはできず，結果的に作品が表面的な美しさに偏ってしまったことが考えられる。時間数が確保できる場合，より原文を深く読むことで，創作にも活かせるようにしたい。また，ワークシートへの創作から，画用紙での表現までを一連の流れでしてしまったため，作業の個人差が大きくなってしまったために，発表・交流する機会をとることができなかった。自分ひとりの作品だけではなく，友だちの作品を鑑賞することが，日本人との違いを感じ取るために重要であると考えられるため，このようになってしまったのは致命的な失敗といえる。ワークシートへの創作が完成した時点で交流の時間をとることができれば，その後の画用紙への表現でも，より日本人にあてて書くということを意識できたかもしれない。

最後に作成した画用紙への表現では，それぞれが絵なども描きながらカラフルに表現しており，後日原小学校の児童も非常に興味を持って見ていた。日米双方で，同じ教材を使い授業をして，同じテーマでの創作というのは，児童自身の意欲が向上するとともに，自分の作品と相手の作品を自然と比較することができるため，有効であったと考えられる。

## 4　体験型教育実地研究における自己変容

### 4.1　教育観の変容

今回一番学んだのは，子どもたちを信頼し，なるべく子どもの力を使うことの重要性である。授業の初めに，自己紹介と共に授業者が十分な英語力を備えていないこと，しかし，児童がそれを十分補ってくれるほど親切であると信じているという話をした。結果として，様々な場面で児童が助けてくれた。それは，お互いの「伝えたい」という想いと，「分かりたい」という想いが十分に満ちていたためであると考えられる。このように，子どもたちの力をリソースとして捕らえ，共に授業を「創っていく」という姿勢が授業創り，学級創りに非常に重要になってくると考える。

### 4.2　自分自身についての変容

日本語と違い，語彙力も文法力も少ない英語でのコミュニケーションは，シンプルに「伝えたいことだけを伝える」というもので，お互いの「伝えよう」「分かろう」という気持ちが大前提となって成り立っている。逆に，その気持ちがあれば多少文法的に間違っていても，「伝わる」。この感覚は，慣れ親しんだ日本語ではなかなか味わえるものではなく，正直気持ちよかった。英語そのものに対しても好意的になり，また，コミュニケーションそのものもとても好きになった。外国の方でも，英語ができないことに引け目を感じず，伝えたいという気持ちで臆することなく話せるようになった。そういう意味で，「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」が身につき，「コミュニケーション能力の素地」が養われたのではないかと考える。

### 4.3　グローバルマインドに関する変容

アメリカの小学校は本当に多民族であった。肌の色，髪の色，瞳の色など外見だけでも様々で，各学校に何人かは日本人の子（日本語を話せたり，名前が日本人だったり）がいた。日本の学校を考えると，やはりアジア系の顔立ちで，黒髪，瞳の色は黒という子がほとんどで，肌が黒い「外国人」の子もいる，というようなイメージなので，どうしても「外国人」に対して（たとえその人が何語を話しても，どこで育っていようとも）構えてしまうところがあるな，と思った。日本の教室においても，個々の子どもの多様性を認めながら，それでも同じ「子ども」，「人」であるということを意識して伝えることで，相手と自分の間に「壁」を作らない子どもを育てていきたい。

## 5　おわりに

今回，このGPSCに参加し，初めてのアメリカということもあり，非常に多くのことを学ぶことができた。これもひとえに今回の研究を計画・実施してくださった方々のご尽力あってのこと多と思う。ご尽力してくださった方，これまでの歴史を作ってきてくださった諸先輩方，GPSC に関係してくださったすべての方々に深く感謝し，御礼申し上げる。今回学んだことを今後の人生や教師生活に活かし，お礼ができたらと思っている。

## 引用・参考文献

清少納言著　Morris Ivan 訳　1971　『The pillow book of Sei Shonagon』，London ; Harmondsworth Penguin